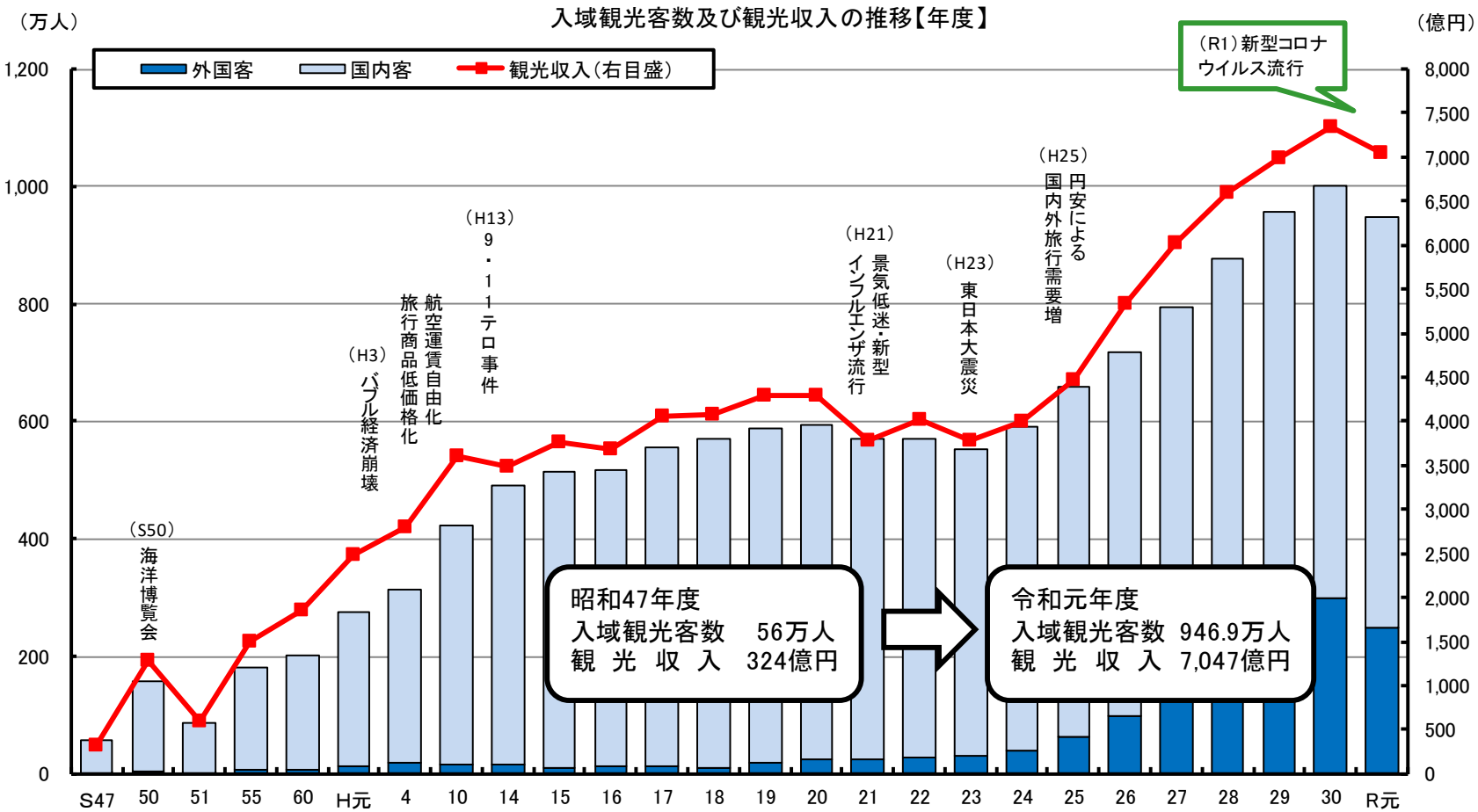
第１部　沖縄観光の現状と課題

(1)沖縄観光のこれまでの推移

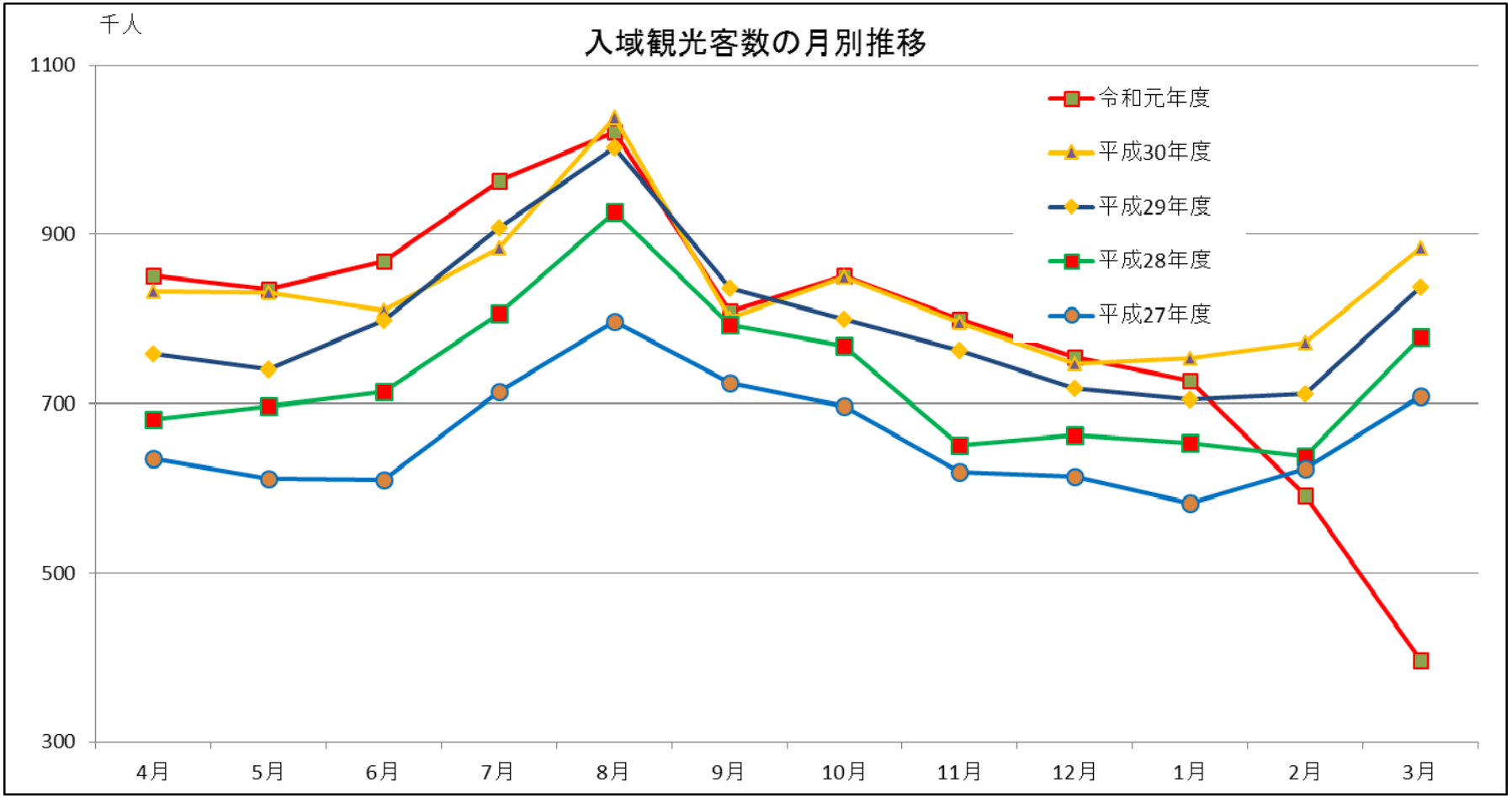
（入域観光客数）
・55．9万人（昭和47年度）→ 946．9万人（令和元年度　16．9倍）
（観光収入）
・324億円（昭和47年度）→7，047億円（令和元年度　21．8倍）



※出所：観光客数は沖縄県「入域観光客統計」、観光収入は沖縄県「観光統計実態調査」
※観光収入は、平成17年度までは暦年の数値、平成18年度以降からは年度の数値
※外国客には、特例上陸者を含む

(2) 令和元年度　沖縄観光の動向①（概況）

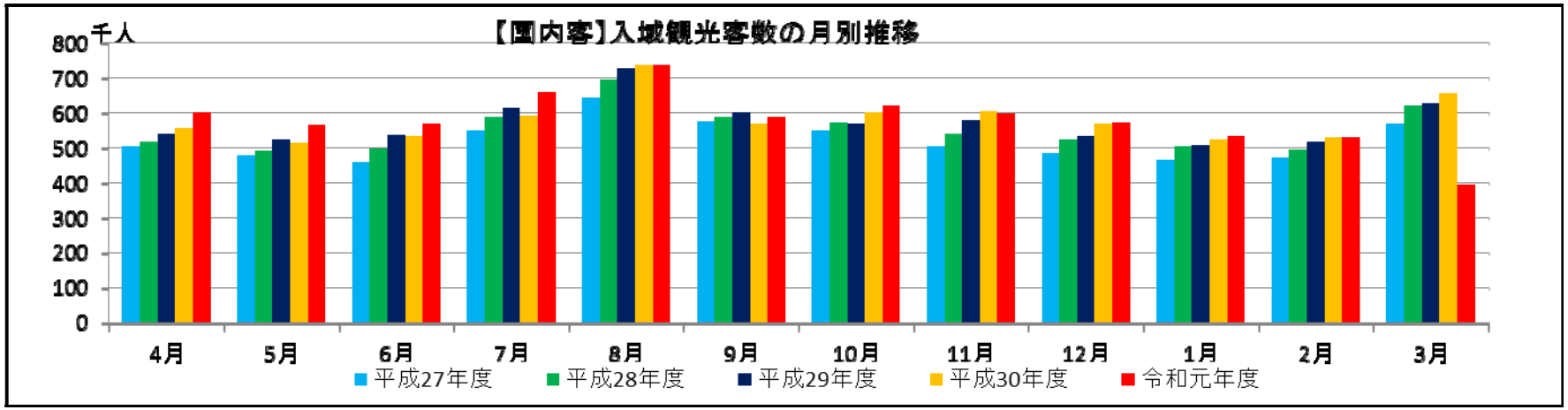
入域観光客数　946万9,200人（対前年度比−53万5,100人、5.3%減）
⇒年度後半における新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数が大幅に減少し、平成23年度以来8年度ぶりの対前年度比減少となった。

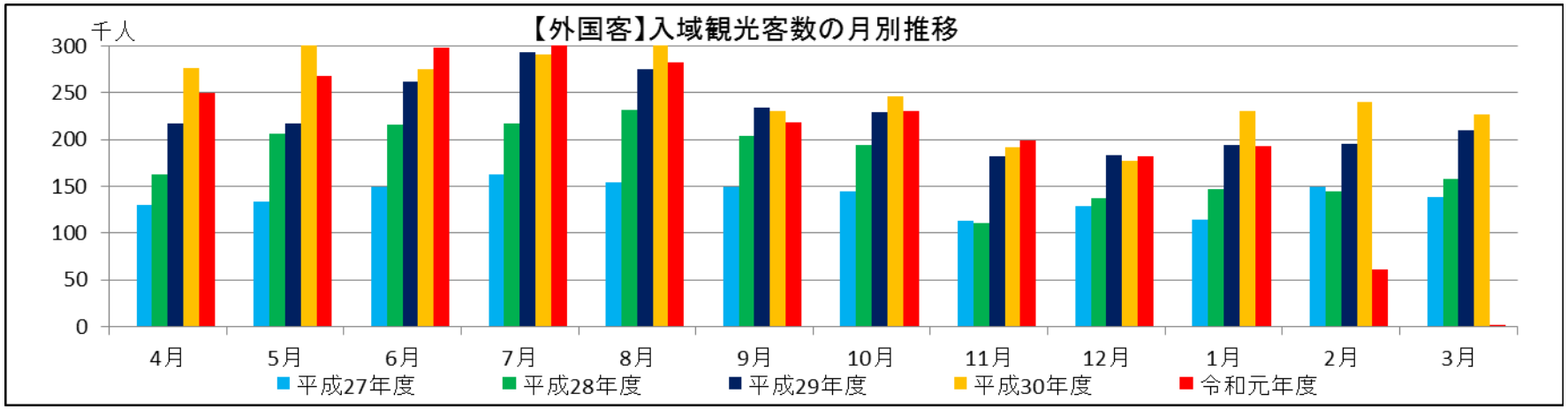


出所：沖縄県「令和元年度沖縄県入域観光客統計概況」

(2)令和元年度　沖縄観光の動向②（概況）

〇国内客は、697万8,800人（対前年度比2万4,700人、0.4%減）　⇒ 平成23年度以来の減少
〇外国客は、249万400人（対前年度比51万400人、17%減）　⇒ 平成18年度以来の減少
（減要因）
共　通：年度後半における新型コロナウイルス感染症の影響による減便や利用率の低下
国内客：新型コロナウイルス感染症の影響に伴う離島直行便など国内航空路線の減便、利用率の低下
外国客：日韓情勢の悪化に伴う韓国客の減少、新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限のため、航空路線の便数やクルーズ船の寄港回数が減少





出所：沖縄県「令和元年度沖縄県入域観光客統計概況」

(2) 令和元年度　沖縄観光の動向③（国籍・地域別）

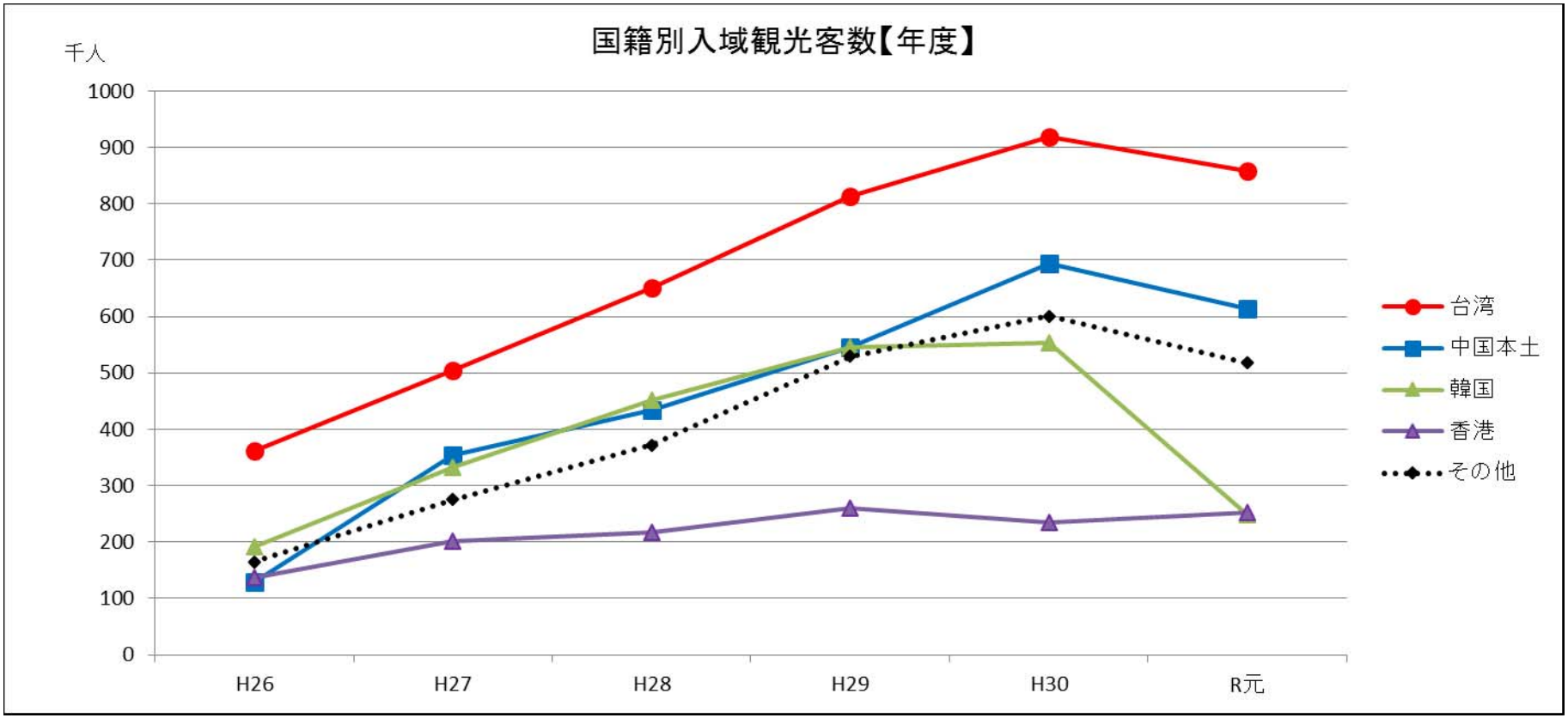
○入域観光客数は、クルーズ船の運休により減少した平成18年度以来の対前年度比減少となった。

（減要因）

〈台湾〉　新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛

〈中国本土〉　新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線やクルーズ船寄港の減少

〈韓国〉　日韓情勢の悪化や新型コロナウイルス感染症の影響により空路客を中心に減少

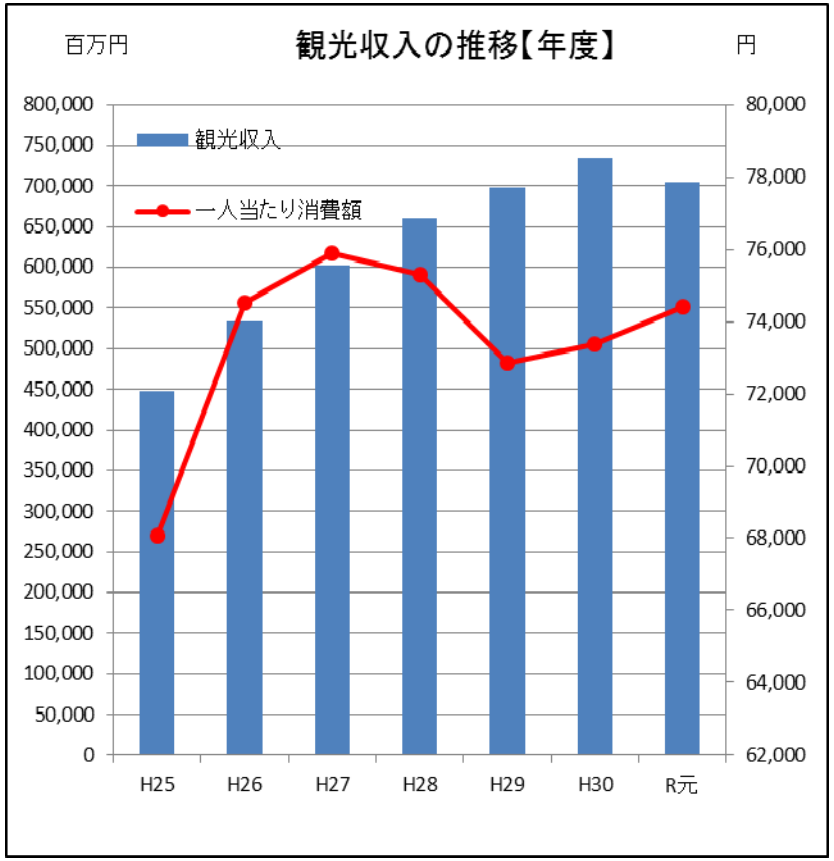


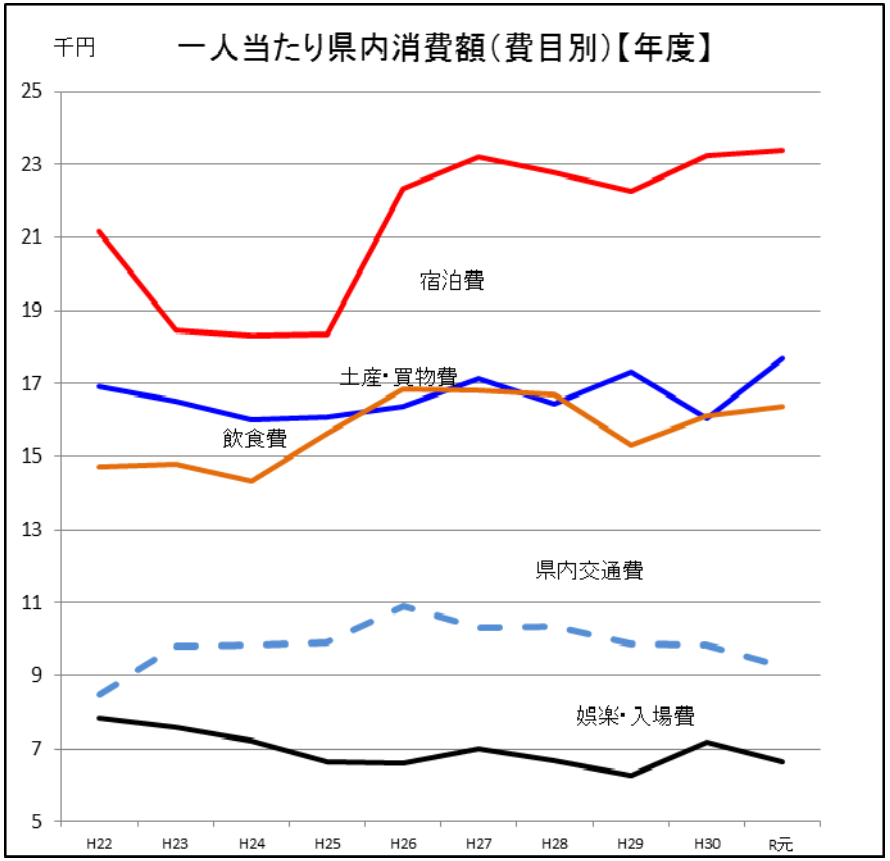
出所：沖縄県「令和元年度沖縄県入域観光客統計概況」

(2) 令和元年度　沖縄観光の動向④（観光収入）

○観光収入　7,047億4,500万円（対前年度比293億1,100万円、4.0%減）
⇒新型コロナウイルス感染症の影響に伴う入域観光客数の減少により、対前年度比が平成23年度以来8年度ぶりに減少。

○観光客一人当たり県内消費額　74,425円（対前年度比1,051円、1.4%増）
・増加要因としては、「宿泊費」の0.7%増、「土産・買物費」の10.3%増、「飲食費」の1.6%増と、これらの費目で前年度を上回ったことがあげられる。

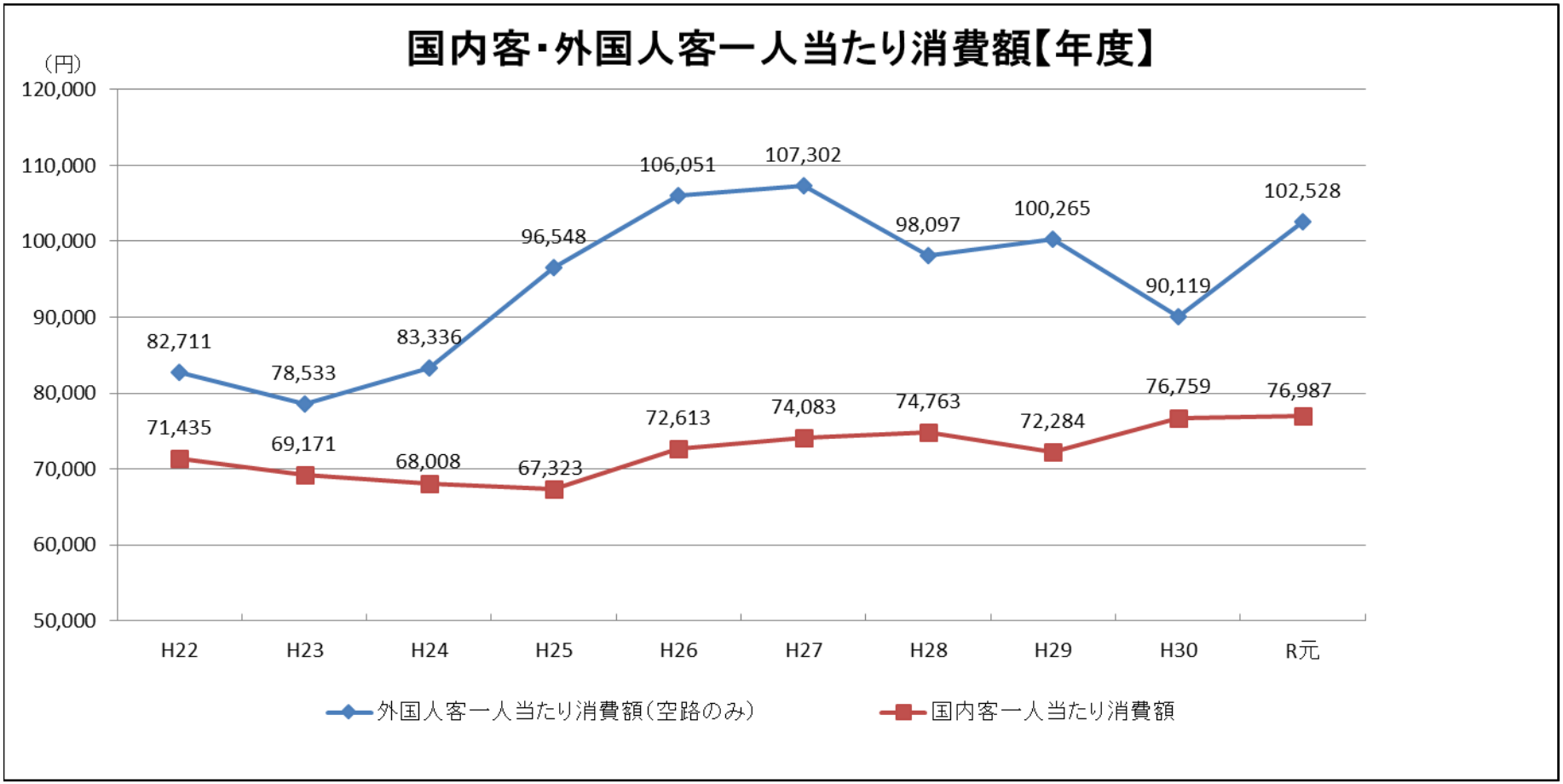




出所：沖縄県「令和元年度の観光収入について」

(2)令和元年度　沖縄観光の動向⑤

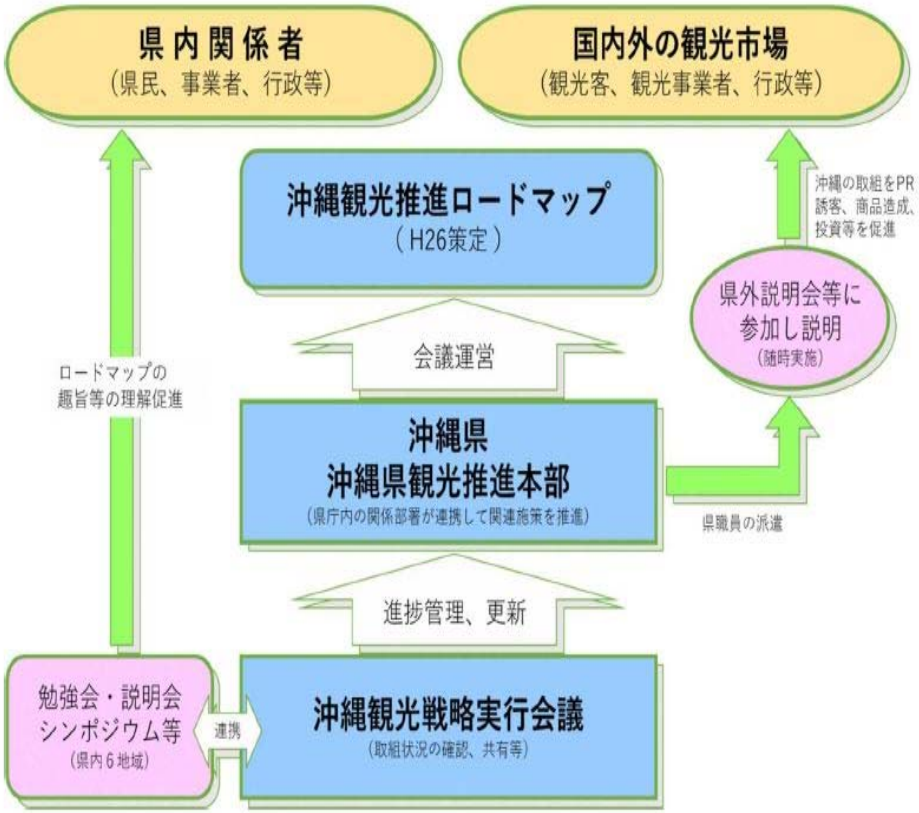
〇一人当たりの消費額
・国内客：76,987円（前年度比228円、0.3%増）
　⇒　６年連続で7万円台
・外国人客（空路）：102,528円（前年度比12,409円、13.8%増）
　⇒　国内客と比較して2.5万円余り高く、経済効果大

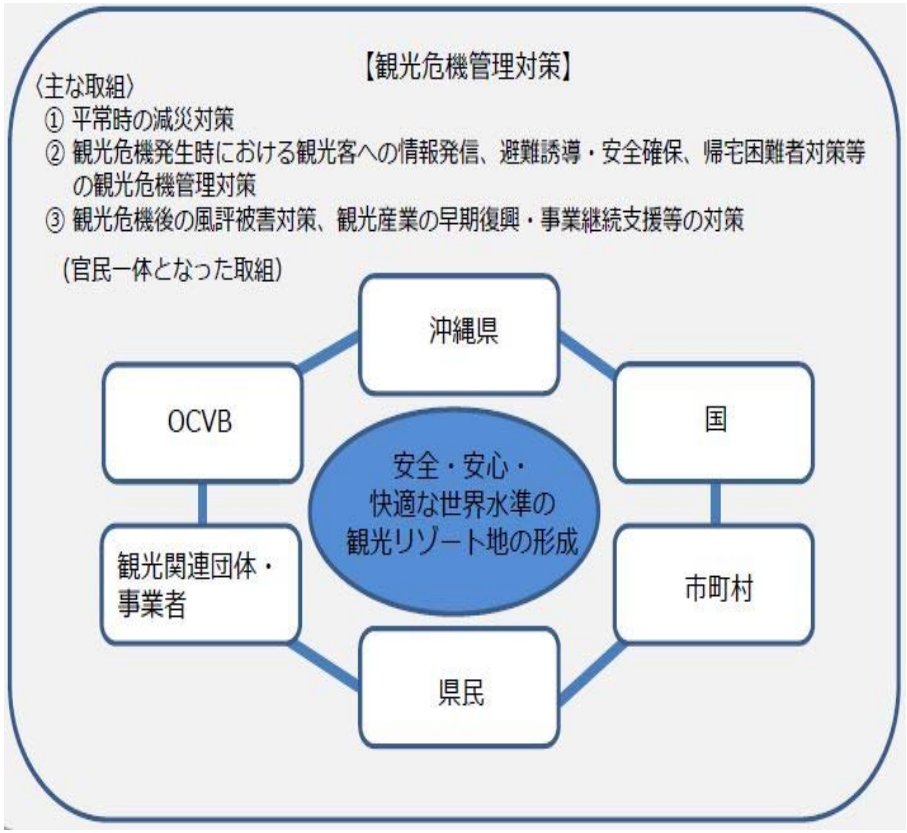


出所：沖縄県「令和元年度の観光収入について」

(2)令和元年度　沖縄観光の動向⑥

○「沖縄観光推進ロードマップ」(平成27年3月沖縄県策定)
　・目的: 目標の達成を目指し、官民一体となって中長期的、段階的に誘客及び受入体制整備等の観光振興施策を推進すること
　・平成33年度目標:　観光収入1.1兆円、入域観光客数1,200万人(第5次沖縄県観光振興基本計画)
○「沖縄県観光危機管理基本計画」(平成27年3月沖縄県策定)
　・目的: 観光産業に負の影響を与える台風、地震、津波、航空機・船舶事故、感染症等の観光危機に関し、観光危機管理の基本的な対応等を定め、観光客の安全・安心が守られる観光地の形成を図ること

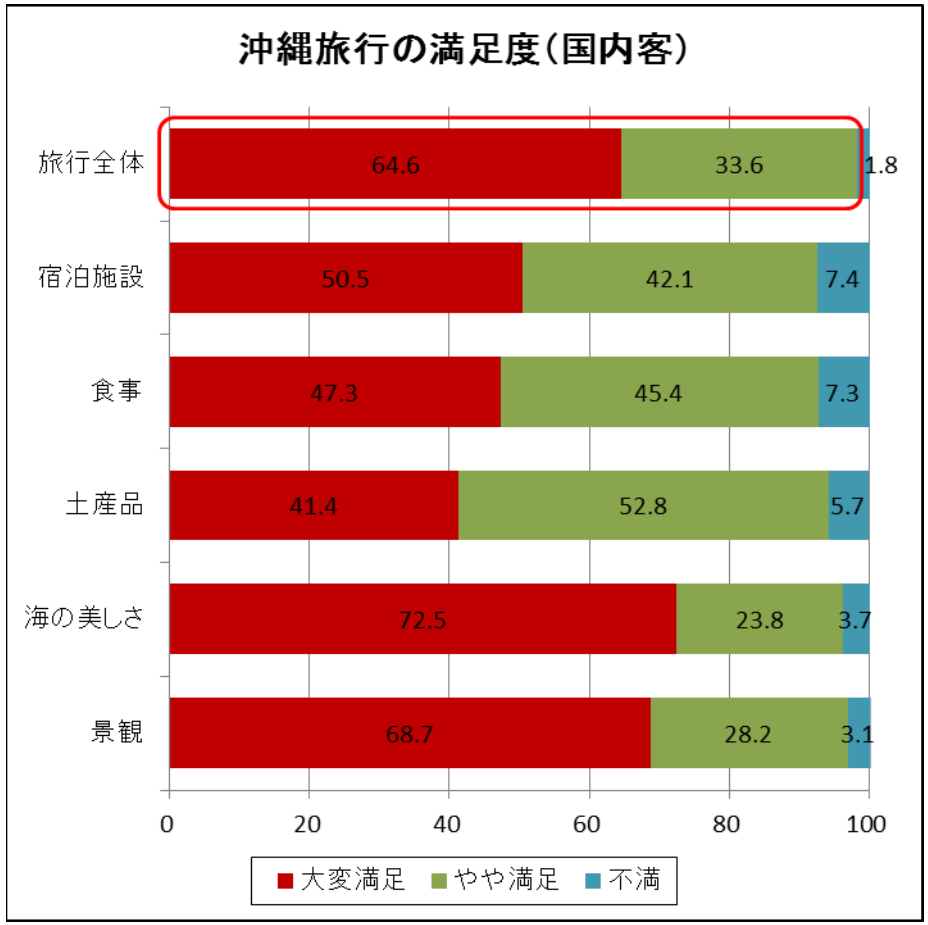


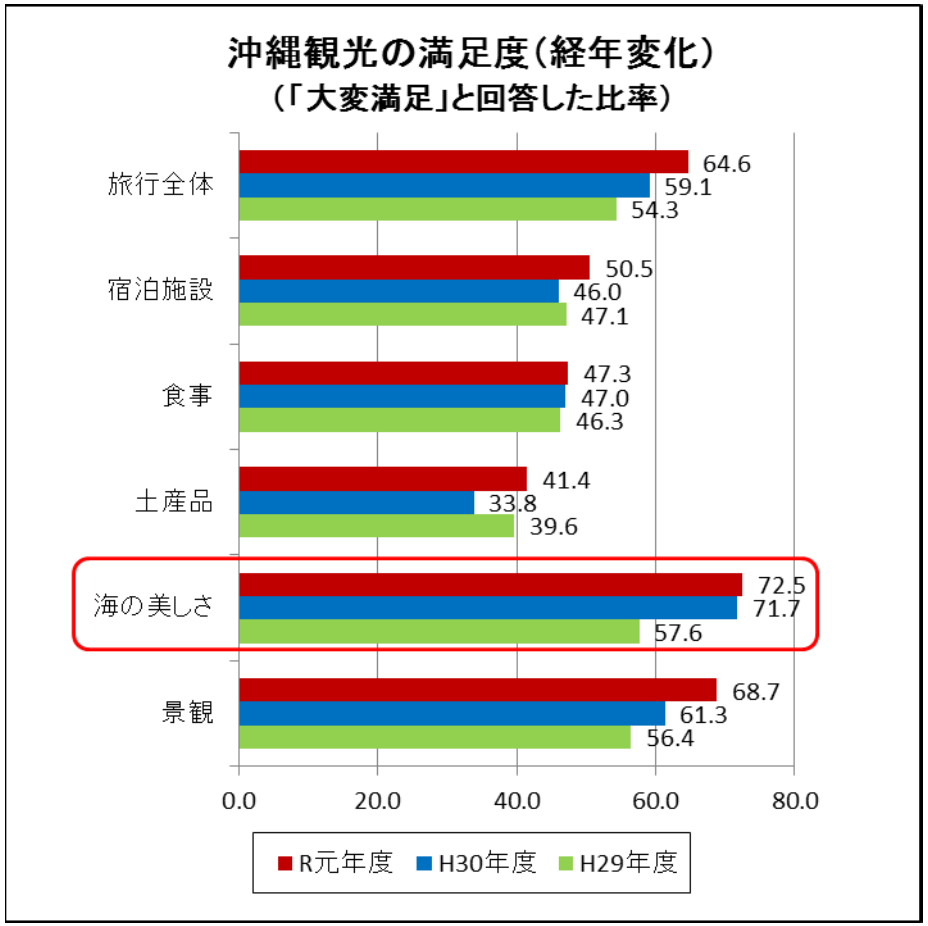


出所:沖縄県「沖縄観光推進ロードマップ」、「沖縄県観光危機管理基本計画」

(3)令和元年度　国内観光客の動向

○国内観光客の満足度
・「大変満足」、「やや満足」を合わせると98.2%
・「海の美しさ」で「大変満足」の比率が最も高く、「土産品」は低い。

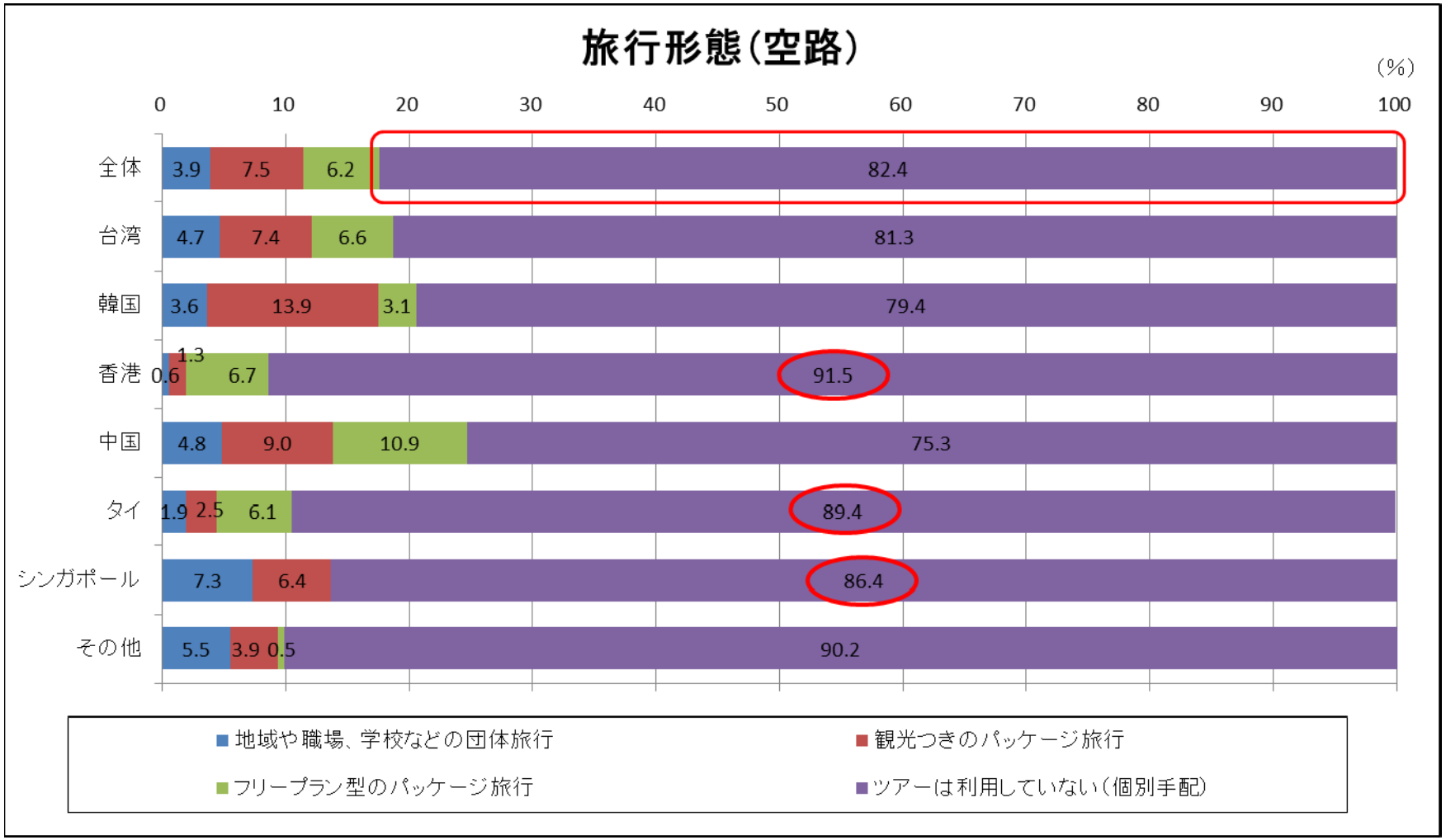




出所：沖縄県「令和元年度観光統計実態調査」

(4)令和元年度　外国人観光客の動向①

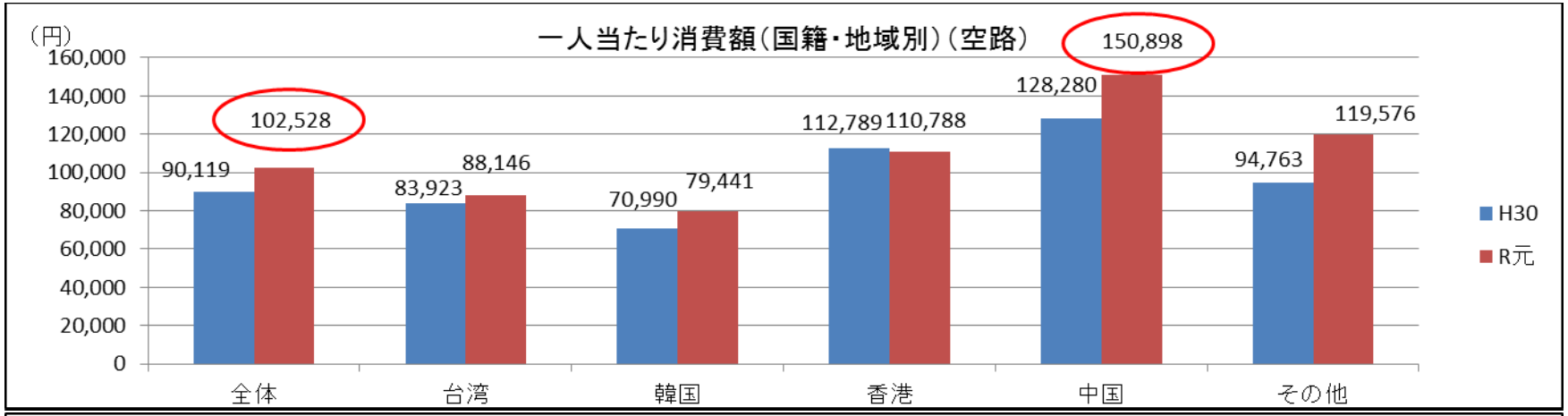
○外国人観光客の旅行形態（空路）
・「個別手配」が、全体の82.4%と多い。
・特に香港（91.5%）、タイ（89.4%）、シンガポール（86.4%）で個別手配の割合が高い。

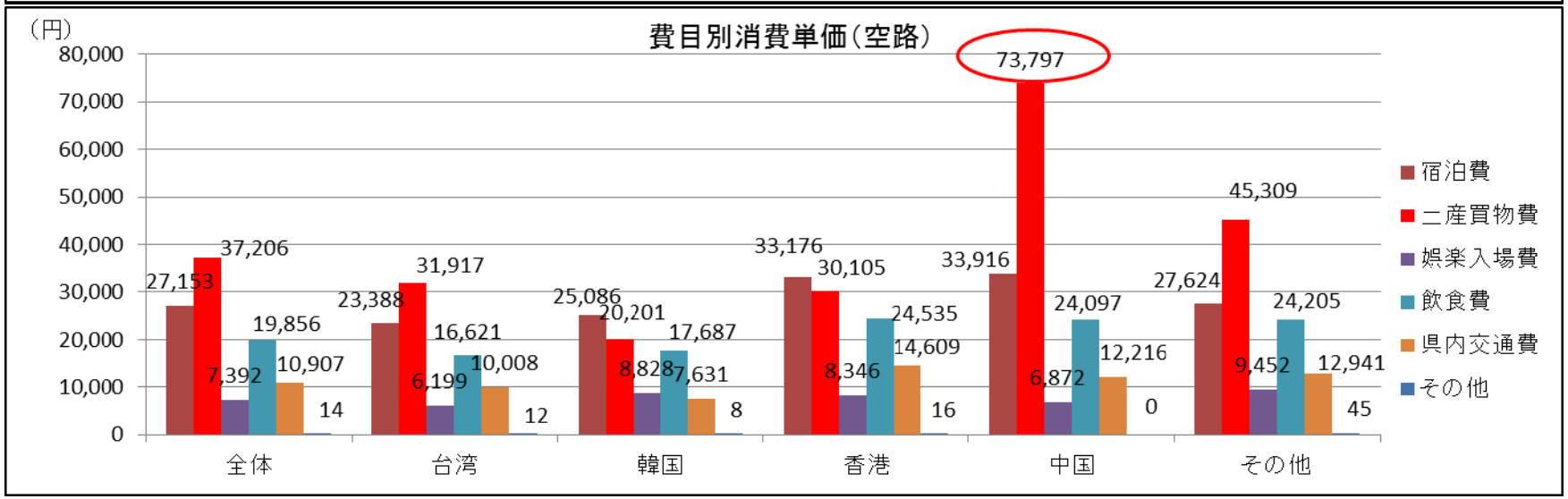


出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査概要報告」に基づき沖縄総合事務局作成

(4)令和元年度　外国人観光客の動向②

〇外国人観光客一人当たりの消費額(空路)
・全体の消費単価　102,528円（前年度比＋12,409円、13.8%増）
※中国人観光客の消費単価が最も高く、全体の消費単価を押し上げている。
・費目別では中国人観光客の「土産買物費」が高めの傾向





出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査概要報告」に基づき沖縄総合事務局作成

(5) 沖縄観光の課題等

① 滞在日数の長期化

② 一人当たりの平均消費額の向上

③ 急増する外国人観光客の満足度の向上
・「交通機関」、「案内標識」、「外国語対応能力」への満足度の向上

④ 観光スタイルの変化、目的の多様化等への対応
・観光客の個人旅行へのシフト

⑤ 交通網の整備

第5次沖縄県観光振興基本計画の数値目標フレーム等

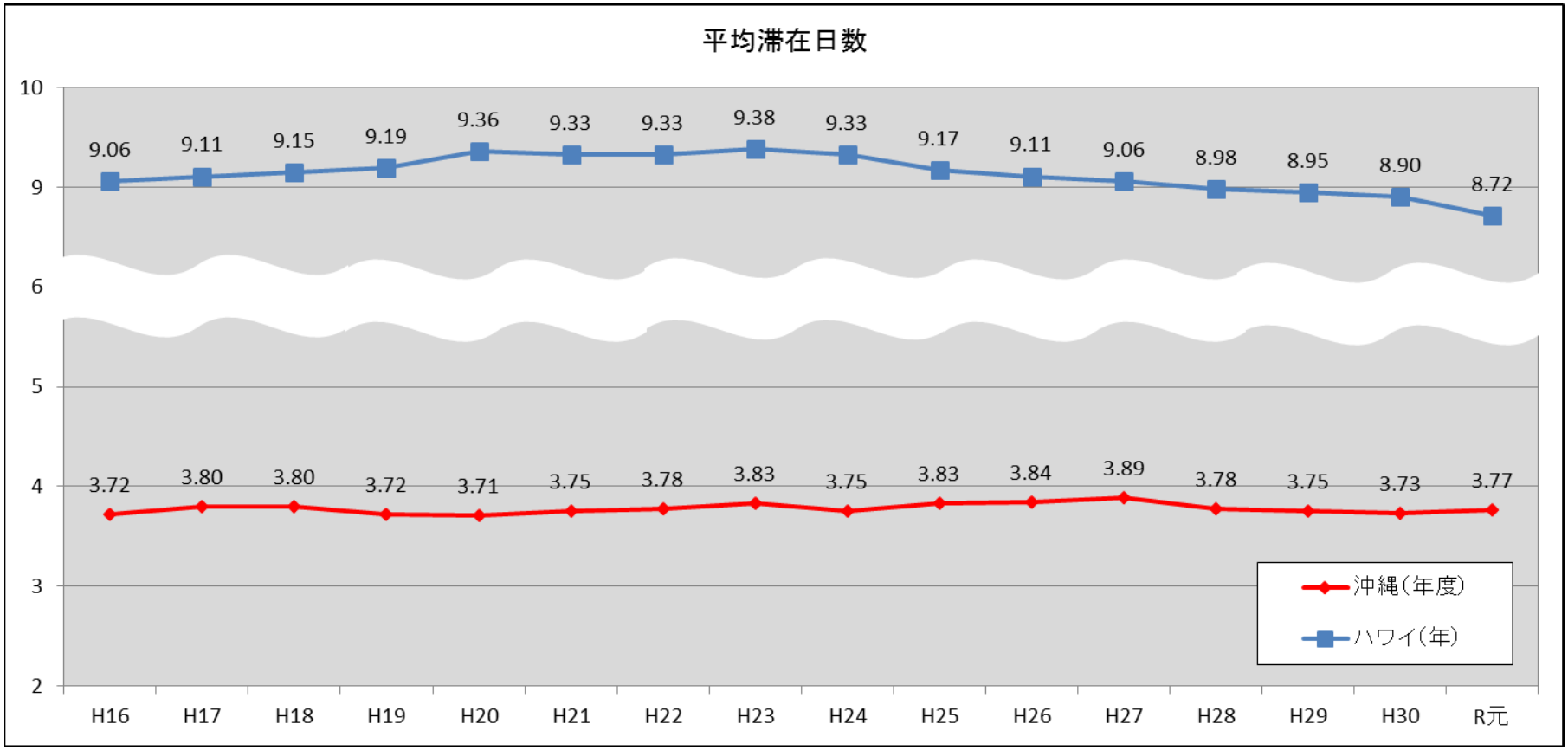
数値目標のフレーム
（1）観光収入： １．１兆円
（2）観光客一人当たり消費額： 93，000円
（3）平均滞在日数： ４．５日
（4）人泊数： ４，200万人泊（うち国内客3，200万人泊、外国空路客1，000万人泊）
（5）入域観光客数： １，200万人（うち国内客800万人、外国客400万人）

観光振興の最大目標である「観光収入」は、「一人当たり消費額」× 「観光客数」で算出されることから、一人当たり消費額と観光客数の両方を増加させることが政策課題

出所：沖縄県「沖縄観光推進ロードマップ」

①滞在日数

平均滞在日数(国内客のみ)は、平成16年度以降は3.8日前後で推移



観光先進地であるハワイと比較した場合、<u>半分以下(日本人に限っても約6割)の水準</u>に留まっている。

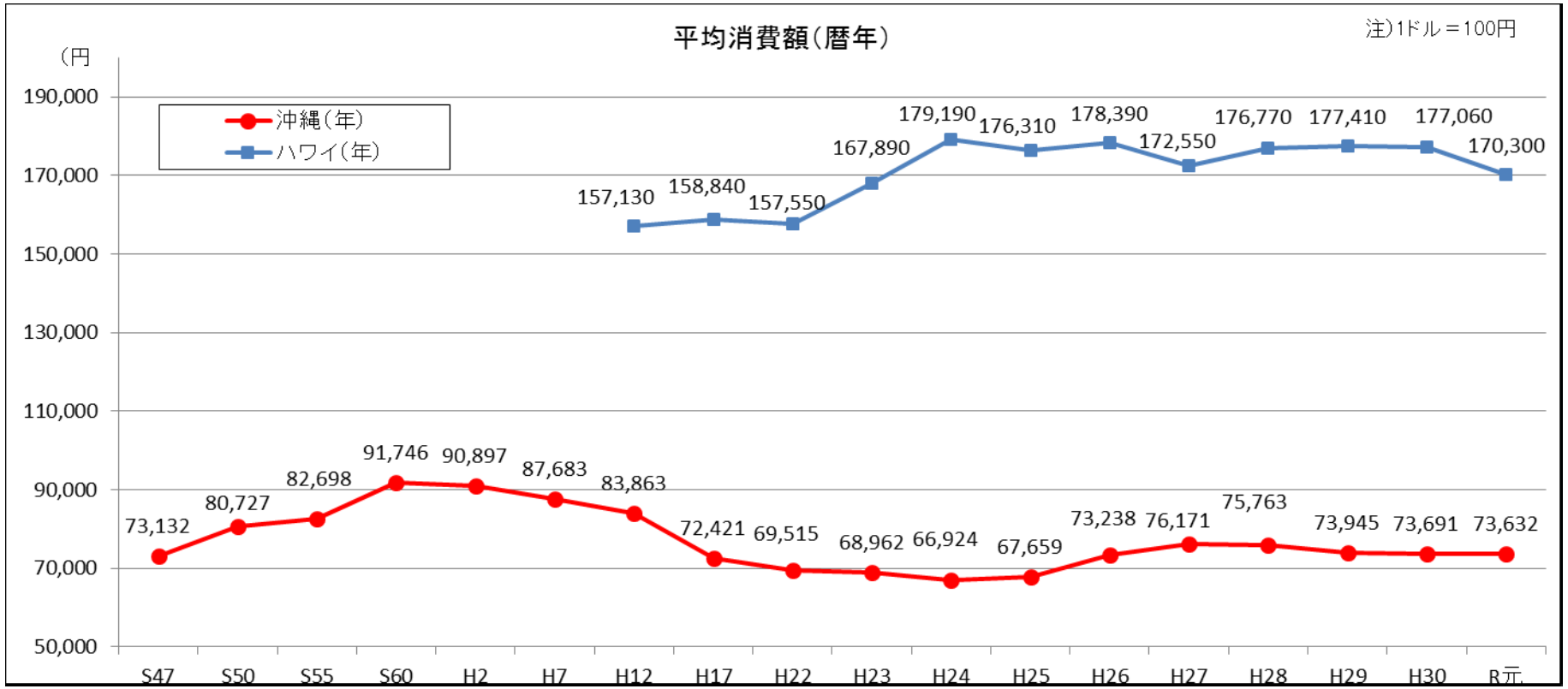
沖　縄　3.77日(令和元年度、国内客のみ)

ハワイ　8.72日(令和元年、うち日本人5.90日)

出所:沖縄県「令和元年の観光収入について」、ハワイ州産業経済開発観光局資料に基づき、沖縄総合事務局作成

②一人当たりの平均消費額

- 昭和60年の91,746円をピークに長期下落傾向が続いていたが、平成26年以降は7万円台で推移し、令和元年は73,632円。



ハワイと比較した場合、おおよそ半分以下の水準に留まっている。（1ドル＝100円換算）

沖　縄　　73,632円（令和元年）

ハワイ　170,300円（1,703.0ドル）（令和元年）

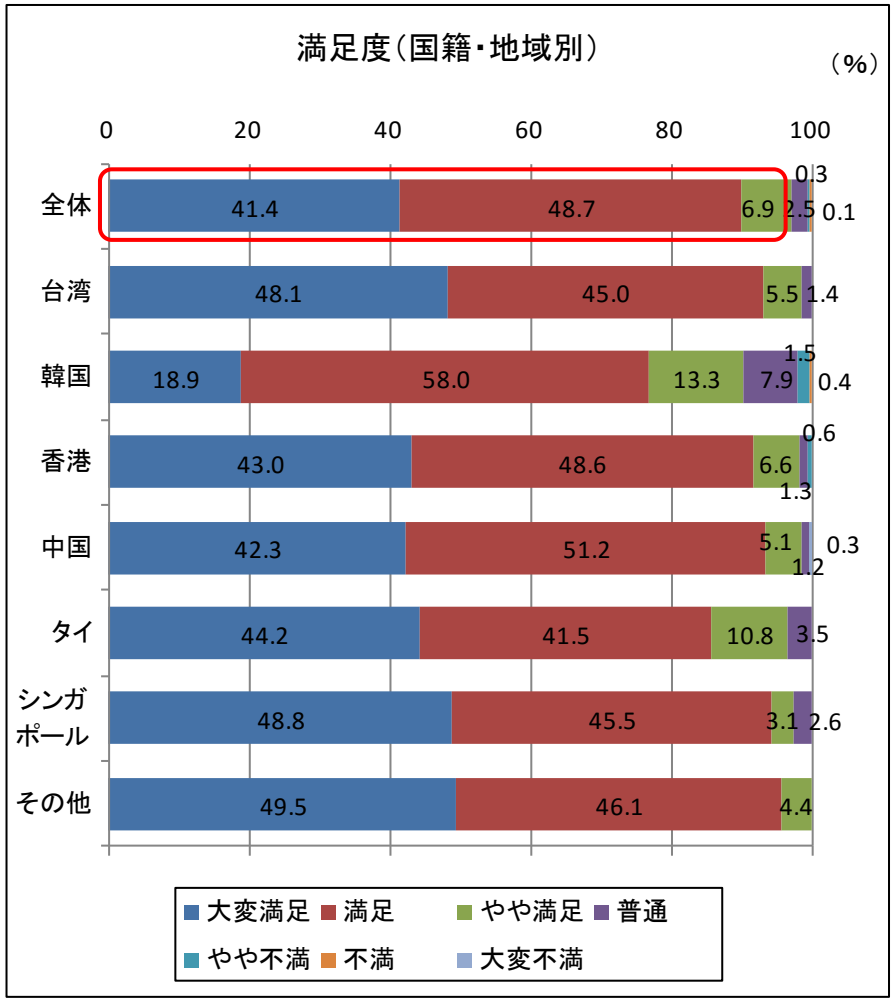
　　うち日本人 141,490円

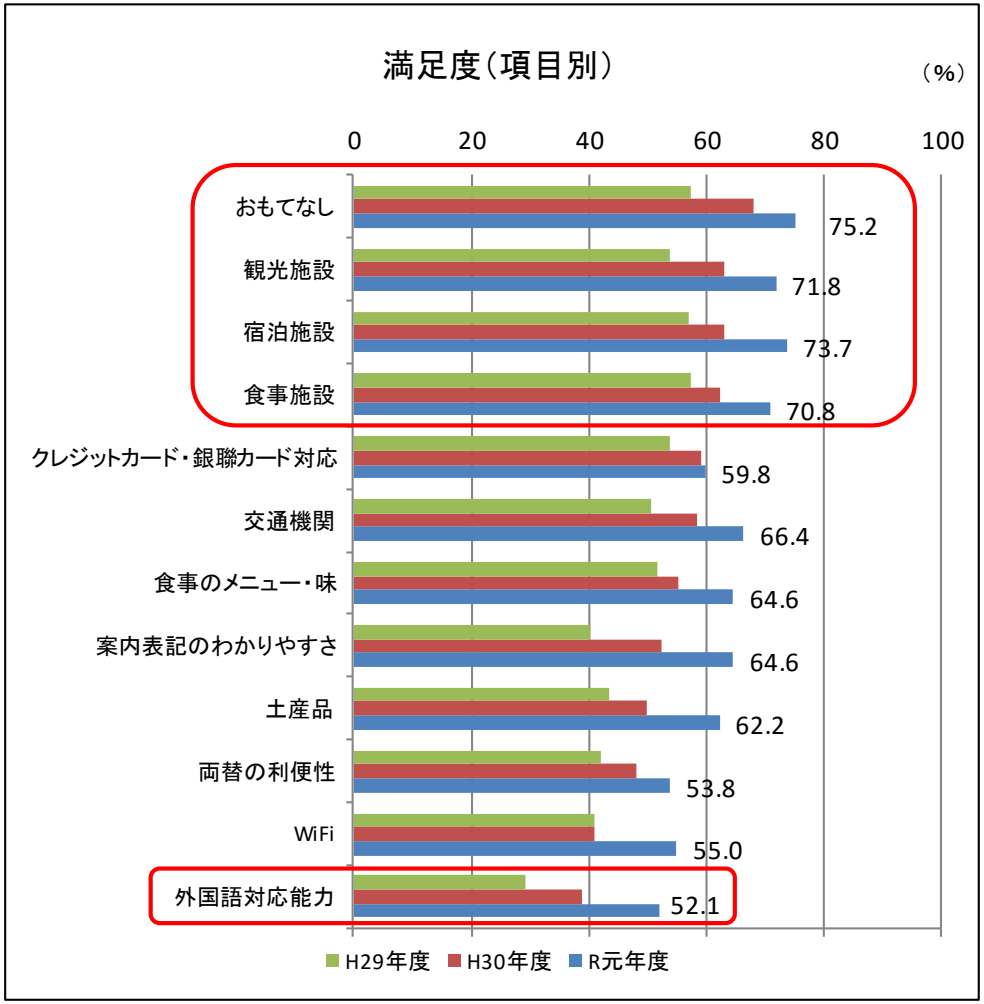
出所：沖縄県「令和元年の観光収入について」、ハワイ州産業経済開発観光局資料に基づき、沖縄総合事務局作成。

③外国人観光客の満足度について（令和元年度、空路）

・全体の満足度（大変満足～やや満足）は97.0%と高い。

・項目別にみると、「おもてなし」、「観光施設」、「宿泊施設」、「食事施設」に対する満足度が比較的高い。「外国語対応能力」の満足度が特に低い。



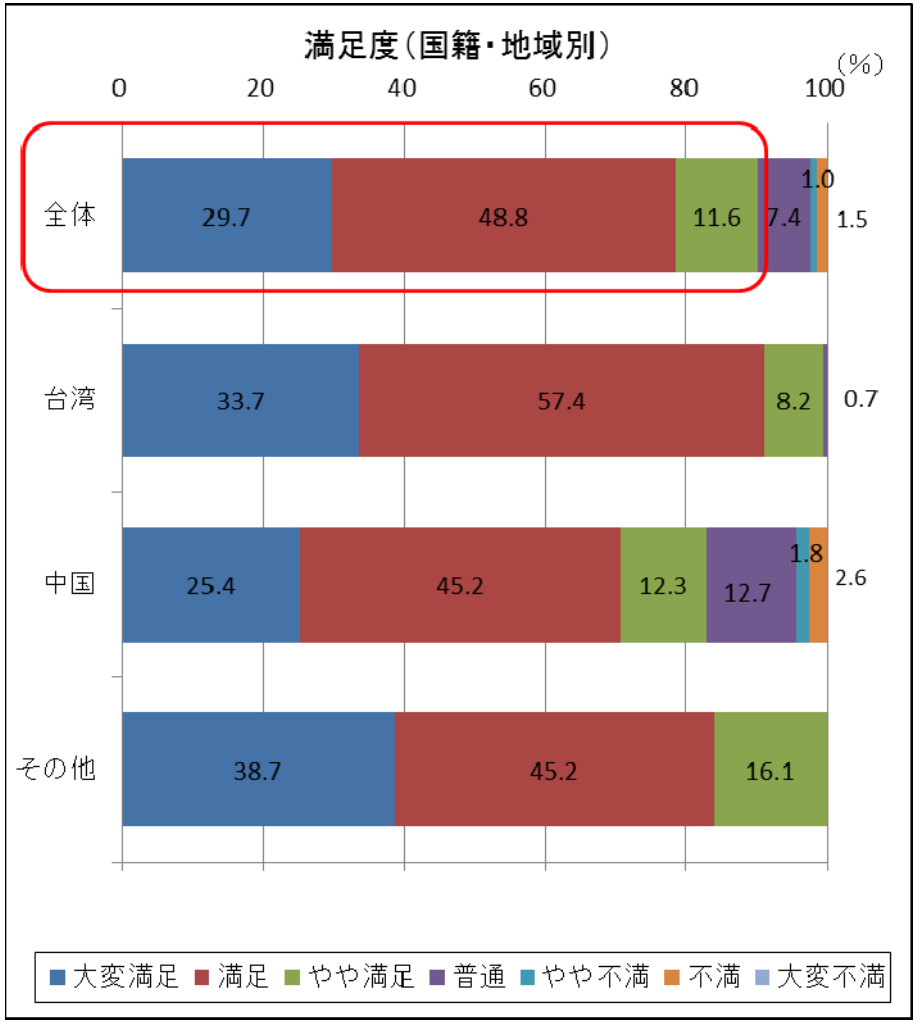


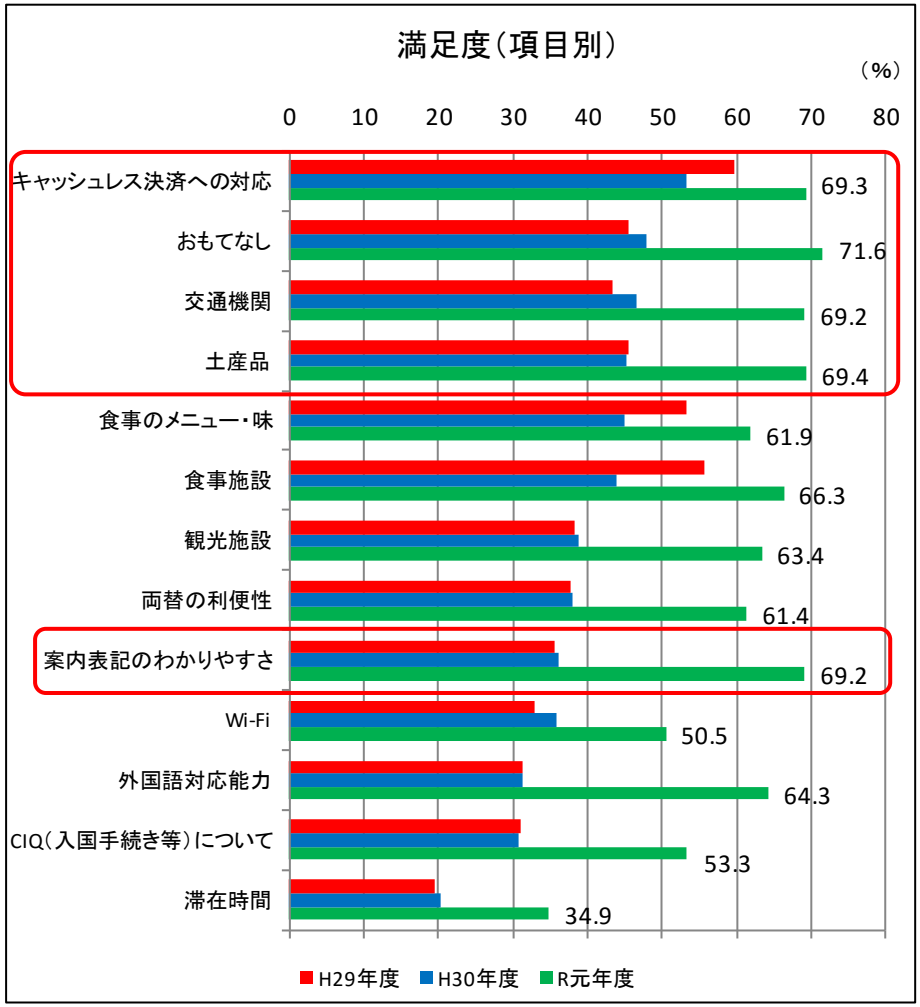
出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査概要報告」に基づき沖縄総合事務局作成

③-2 外国人観光客の満足度について（令和元年度、海路－那覇港）

・全体の満足度（大変満足～やや満足）は90.1%。台湾の満足度がやや高い。

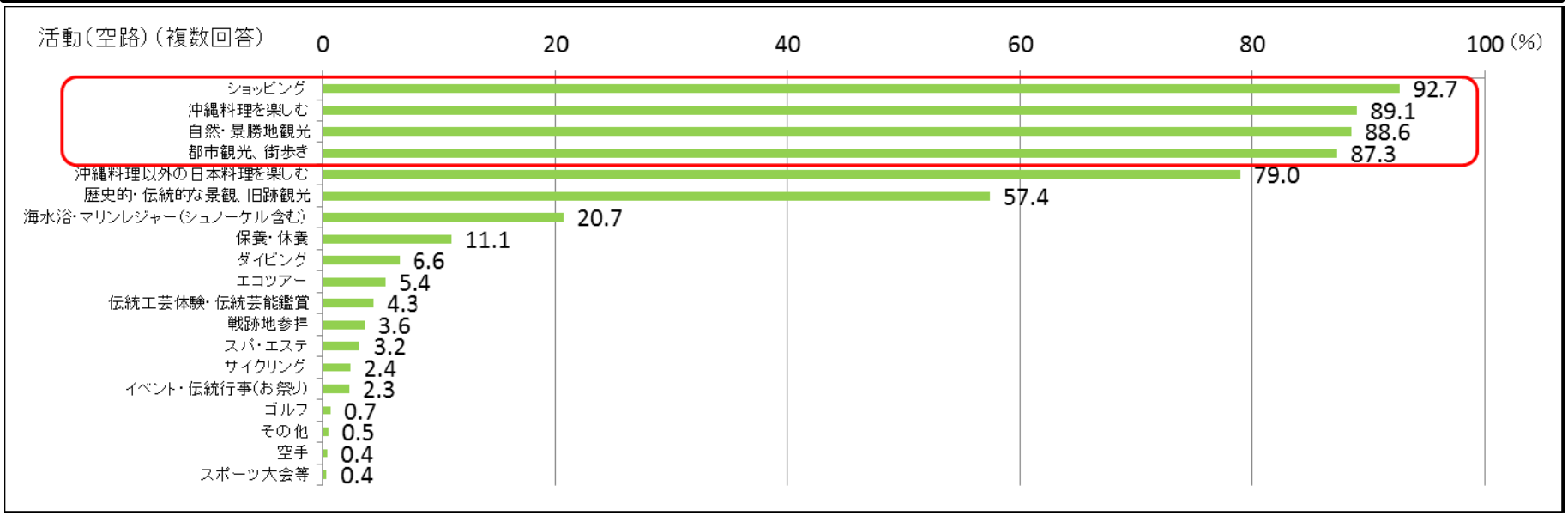
・項目別にみると、「キャッシュレス決済への対応」、「おもてなし」、「交通機関」、「土産品」、「案内表記のわかりやすさ」に対する満足度が比較的高い。「滞在時間」の満足度が低い。





出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査概要報告」に基づき沖縄総合事務局作成

○「外国人観光客の沖縄での活動」について（令和元年度、空路）
・約8割以上が「ショッピング」、「沖縄料理を楽しむ」、「自然・景勝地観光」「都市観光、街歩き」、を実施している。



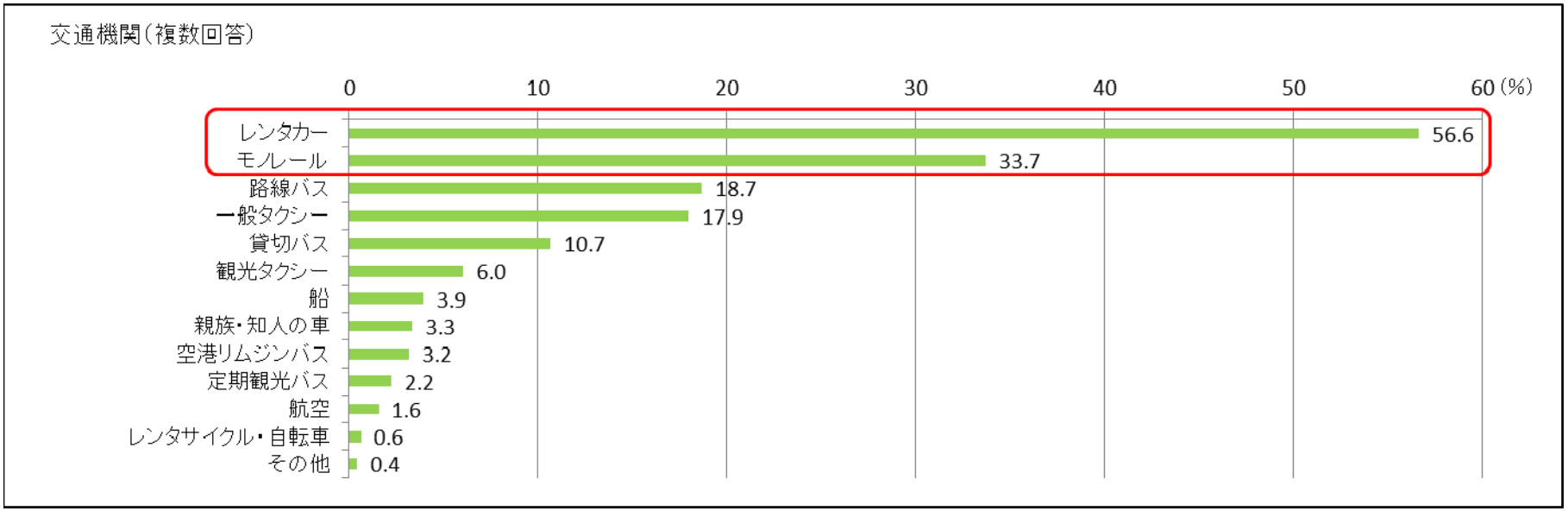
	全体	台湾	韓国	香港	中国	タイ	シンガポール	その他
ショッピング	92.7	98.0	76.4	95.8	96.7	90.6	96.0	83.7
沖縄料理を楽しむ	89.1	94.7	69.0	93.2	93.9	78.9	84.8	88.4
自然・景勝地観光	88.6	91.9	76.8	92.2	91.1	88.1	91.9	82.0
都市観光、街歩き	87.3	92.2	79.4	88.6	83.9	95.7	86.8	77.7
沖縄料理以外の日本料理を楽しむ	79.0	83.8	66.2	80.0	82.6	66.1	79.0	73.2
歴史的・伝統的な景観、旧跡観光	57.4	60.3	47.3	51.2	59.4	74.4	81.9	64.4
海水浴・マリンレジャー（シュノーケル含む）	20.7	15.6	30.8	21.8	17.9	15.8	13.7	35.1
保養・休養	11.1	1.6	42.7	2.3	0.6	59.7	7.1	22.9
ダイビング	6.6	5.3	7.2	12.0	1.6	6.6	7.3	12.6
エコツアー	5.4	4.4	3.8	8.3	3.9	24.8	2.2	8.6
伝統工芸体験・伝統芸能鑑賞	4.3	3.7	3.8	3.6	2.2	17.6	4.9	12.6
戦跡地参拝	3.6	3.0	5.0	2.6	0.1	13.9	2.2	11.6
スパ・エステ	3.2	1.1	11.5	1.3	0.2	14.1	1.1	3.3
サイクリング	2.4	1.3	2.8	6.6	0.1	4.7	2.6	3.4
イベント・伝統行事（お祭り）	2.3	1.7	3.5	1.8	0.5	10.2	1.1	7.1
ゴルフ	0.7	0.2	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	4.2
その他	0.5	0.2	0.7	0.4	1.1	1.6	0.0	0.5
空手	0.4	0.1	0.8	0.1	0.5	3.5	1.1	0.0
スポーツ大会等	0.4	0.2	0.8	0.3	0.0	1.7	2.6	0.0

出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査」

○外国人観光客の交通機関の利用について（令和元年度、空路）

・全体では「レンタカー」が56.6%と最も多く、次いで「モノレール」と続いている。

・国籍・地域別では、個別手配やフリープラン型パッケージ旅行の利用が多い香港、タイ、シンガポールで「レンタカー」の利用率が高く、観光つきのパッケージ旅行の利用が多い中国で「タクシー」、「バス」の利用率が高い。



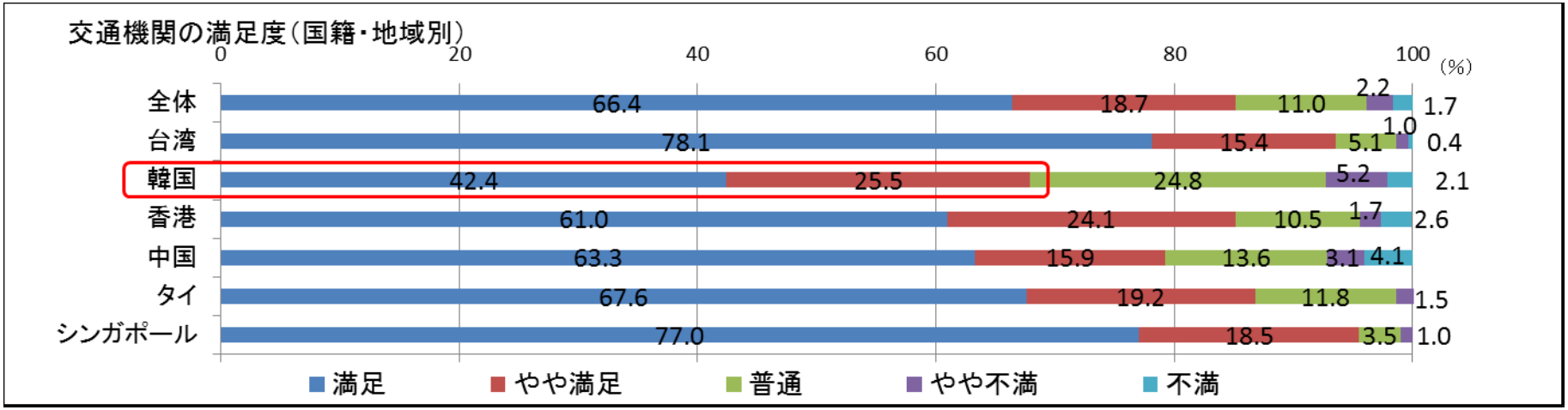
	全体	台湾	韓国	香港	中国	タイ	シンガポール	その他
レンタカー	56.6	70.9	57.7	69.2	4.5	63.0	68.4	45.3
モノレール	33.7	36.6	22.1	26.6	50.9	44.5	35.4	17.5
路線バス	18.7	13.4	11.2	22.1	36.2	31.5	14.1	22.6
一般タクシー	17.9	11.2	11.8	17.8	41.9	23.5	18.9	22.3
貸切バス	10.7	11.5	14.4	1.9	14.9	3.5	10.3	7.9
観光タクシー	6.0	0.4	1.9	0.7	35.6	0.0	1.0	0.5
船	3.9	1.8	2.2	11.3	3.6	1.7	0.0	7.7
親族・知人の車	3.3	0.2	3.3	1.0	2.9	4.5	0.0	32.9
空港リムジンバス	3.2	1.1	6.2	2.6	2.7	5.9	1.1	11.4
定期観光バス	2.2	2.3	1.2	3.2	3.0	3.0	1.1	0.5
航空	1.6	1.0	2.7	1.1	1.3	3.7	4.7	2.9
レンタサイクル・自転車	0.6	0.3	0.3	1.1	0.3	1.7	0.0	3.4
その他	0.4	0.7	0.6	0.1	0.0	1.0	0.0	0.0

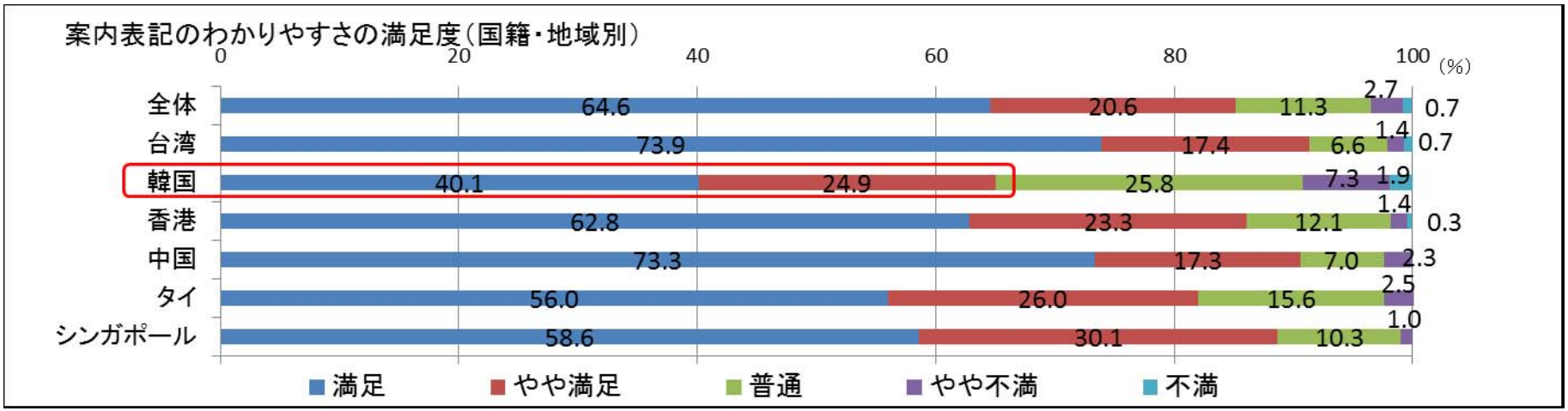
出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査概要報告」

〇外国人観光客の「交通機関の満足度」及び「案内標記のわかりやすさの満足度」について（令和元年度、空路）

・交通機関については、台湾、シンガポールで満足度が高く、韓国（67.9%）が低い。

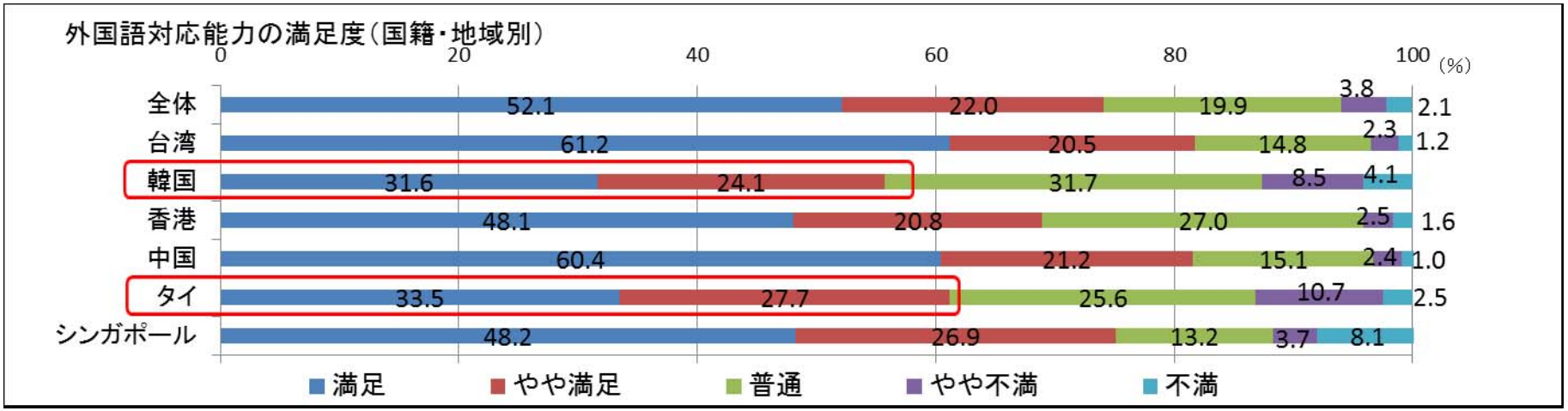
・案内標記のわかりやすさについては、韓国（65%）の割合が低い。

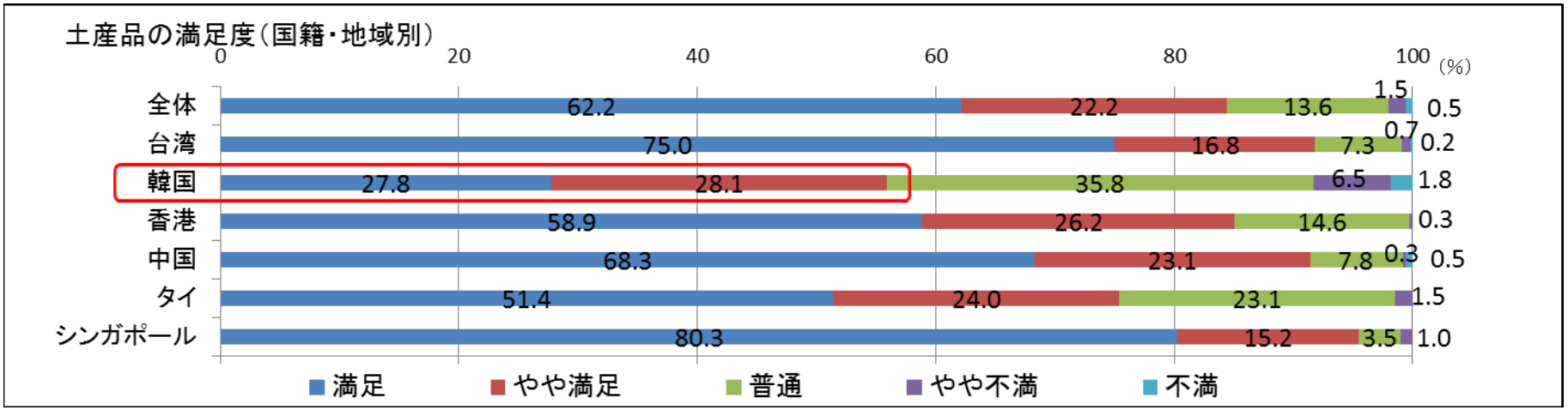




出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」

○外国人観光客の「外国語対応能力の満足度」及び「土産品の満足度」について（令和元年度）
・外国語対応能力については、全体的に満足度が低い傾向にあり、特に、タイ、韓国の満足度の割合が低い。
・土産品については、満足度が84.4%。韓国の割合が比較的低い（55.9%）。



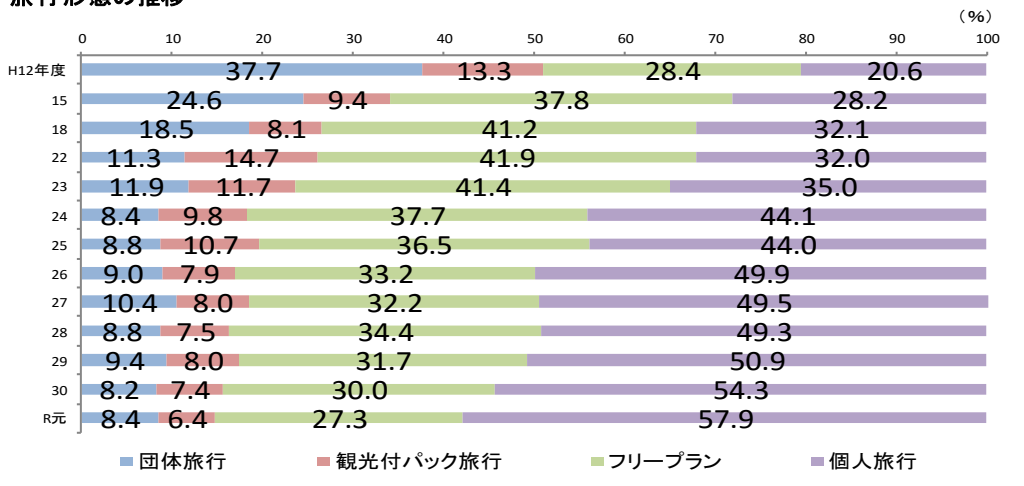


出所：沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」

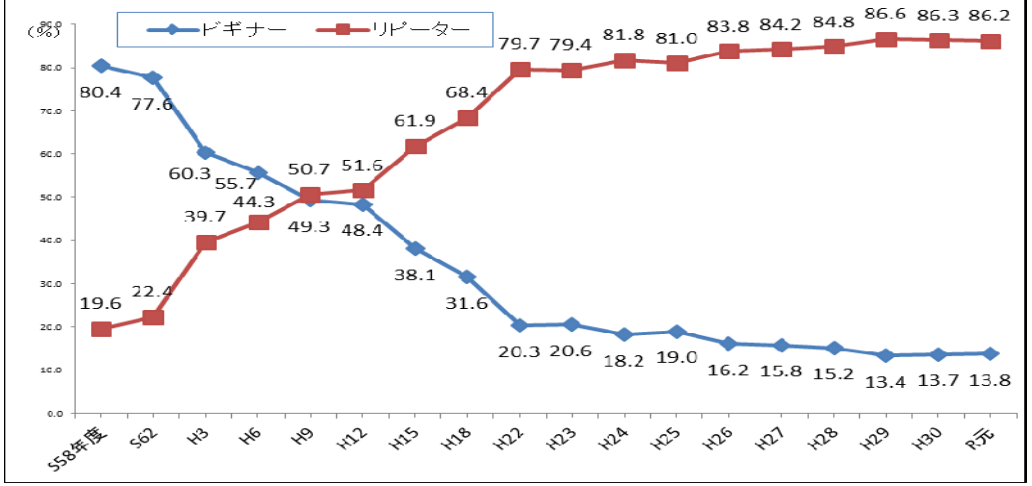
④観光スタイルの変化、目的等（国内客）

- ・フリープランが減少傾向にあり、個人旅行が増加している。
- ・旅行内容の消費者ニーズは多様なニーズがある。
- ・リピーター率は、平成24年度以降、8割を超えている。

旅行形態の推移



初回来訪率とリピーター率の推移



※出所：沖縄県「令和元年度観光統計実態調査」
※H12年度H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

旅行内容別推移

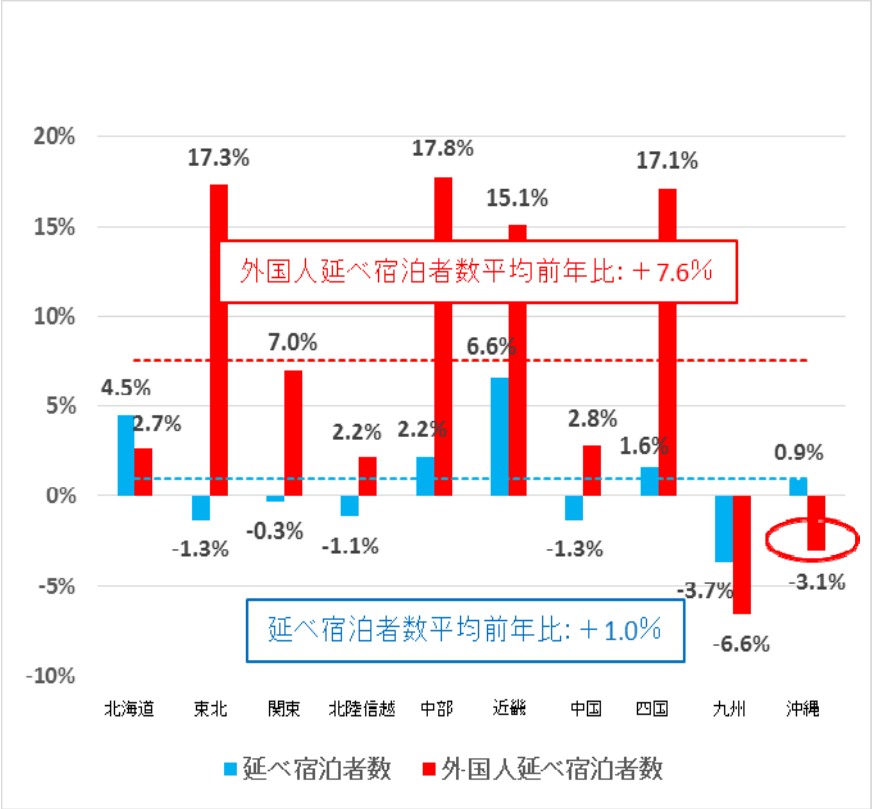
（単位：%）

活動内容（複数回答）	H15年度	H18年度	H21年度	H24年度	H27年度	H30年度	R元年度
観光地めぐり	72.1	68.4	61.3	60.1	56.0	55.4	59.3
保養・休養	17.6	16.8	26.1	25.3	28.1	30.7	27.9
海水浴・マリンレジャー	34.1	27.4	25.2	24.5	28.0	27.5	25.0
ダイビング	8.7	7.9	8.7	9.5	7.6	7.0	4.9
ゴルフ	4.1	4.4	3.8	3.9	4.7	4.1	3.9
釣り	1.7	1.9	1.2	1.5	1.7	1.8	1.6
スパ・エステ	－	3.8	3.4	3.6	3.5	3.3	2.8
スポーツ大会等	1.5	1.7	1.5	0.8	1.5	1.7	3.2
エコツアー	1.4	1.4	1.8	2.3	1.5	2.4	4.0
伝統工芸・芸能体験	－	－	6.1	6.2	7.3	6.8	5.7
ショッピング	44.4	33.4	26.7	23.9	22.7	26.1	24.4
戦跡地参拝	16.3	12.2	9.9	9.5	10.2	7.2	7.0
沖縄料理を楽しむ	－	38.8	38.1	39.1	41.9	44.3	40.1
イベント・伝統行事等	4	4.6	3.3	4.6	4.5	7.1	5.9
新婚旅行	1.3	1.5	1.6	1.3	1.5	1.2	1.3
ウエディング	1.3	2.1	2.4	2	2.9	2.0	2.1
帰省・親戚等訪問	6.3	6.6	4.6	5.5	4.8	3.8	4.7
会議・研修	6.6	6.4	7.2	6.8	6.2	9.7	8.6
仕事	11	11.6	11.1	10.1	12.2	12.3	13.1
プロスポーツキャンプ見学	－	－	－	－	3.6	3.2	2.0
その他	4.9	3.6	5.7	7.5	4.5	5.0	4.9

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向①

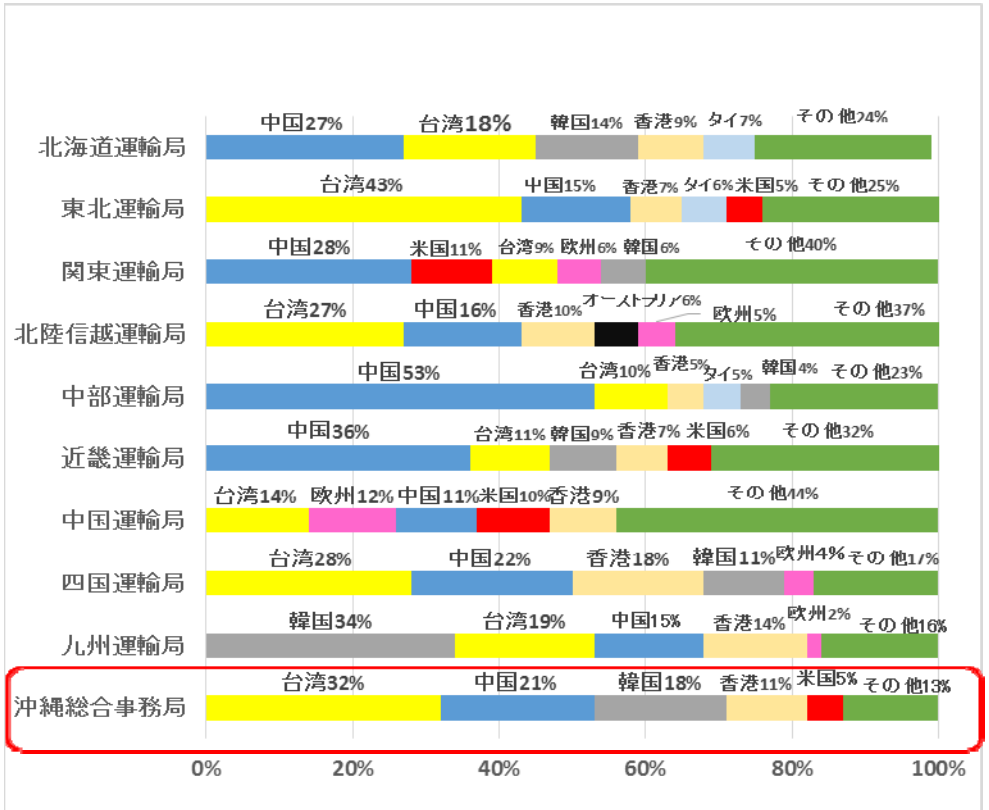
〇外国人延べ宿泊者数（令和元年）
・前年比を地方ブロック別にみると、東北、中部、近畿、四国地方が15%以上の特に高い伸びとなった一方、九州及び沖縄は韓国からの旅行控え等の影響によりマイナスとなった。
・国・地域別にみると、沖縄には、台湾、中国、韓国からの来訪が多い。他の地方を見ると、中国からは北海道・関東・中部・近畿、韓国からは九州、台湾からは東北等の5地方で最も高い比率を占めた。

延べ宿泊者数（全体）、外国人延べ宿泊者数の
地方ブロック別対前年比（2019年）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」
注1：2018年の確定値と2019年の速報値を比較した。

地方ブロック別外国人延べ宿泊者の国・地域別構成比
（2019年）

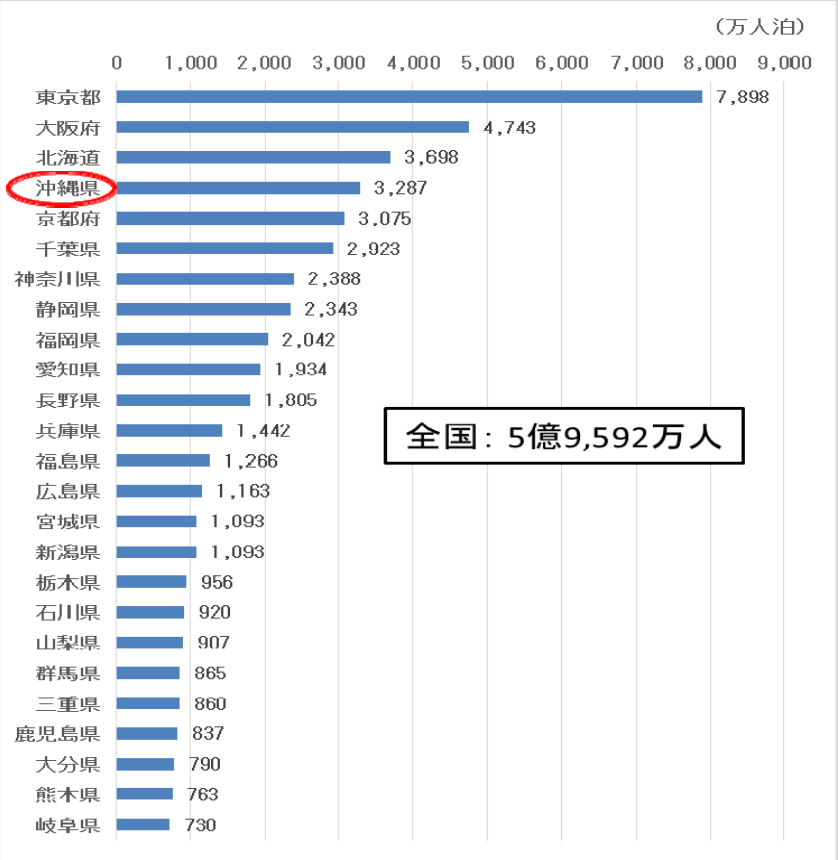


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」
注1：2019年の数値は速報値
注2：欧州はドイツ・英国・フランス・ロシア・イタリア・スペインの6ヵ国

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向②

〇延べ宿泊者数（令和元年）
・全国の延べ宿泊者数は5億9,592万人泊、うち沖縄県は3,287万人泊で全国で4位（前年4位）
・全国の外国人延べ宿泊者数は11,566万人泊、うち沖縄県は775万人泊で、全国で5位（前年5位）
・外国人延べ宿泊者数の全体に占める割合は、沖縄県（23.6%）は全国（19.4%）より高い。

都道府県別延べ宿泊者数（令和元年（確定値、上位25県））



都道府県別外国人延べ宿泊者数（令和元年（確定値、上位25県）

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査（令和元年・年間値（確定値）」

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向③

〇消費税免税店の数（2020年3月31日時点）
・全国では54,667店となり、半年間で2,445店（4.7%）増加
・沖縄県では1,253店となり、半年間で57店（4.8%）増加

都道府県別消費税免税店数の分布

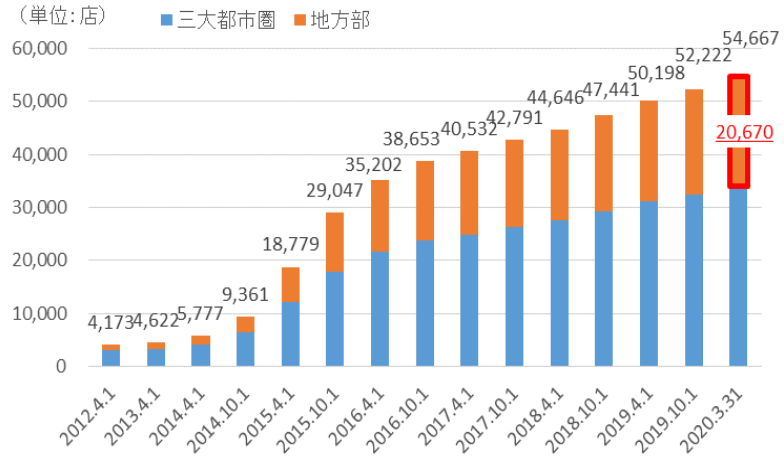
	店舗数		増加数	対前回比率
	2019.10.1	2020.3.31		
北海道運輸局	2,820	2,880	60	102.1%
北海道	2,820	2,880	60	102.1%
東北運輸局	1,953	2,091	138	107.1%
青　森	219	231	12	105.5%
岩　手	234	258	24	110.3%
宮　城	918	967	49	105.3%
秋　田	130	144	14	110.8%
山　形	204	219	15	107.4%
福　島	248	272	24	109.7%
関東運輸局	22,312	23,555	1,243	105.6%
茨　城	490	512	22	104.5%
栃　木	388	405	17	104.4%
群　馬	274	295	21	107.7%
埼　玉	1,672	1,796	124	107.4%
千　葉	2,753	2,831	78	102.8%
東　京	13,546	14,423	877	106.5%
神奈川	2,926	3,010	84	102.9%
山　梨	263	283	20	107.6%
北陸信越運輸局	1,847	1,904	57	103.1%
新　潟	391	407	16	104.1%
富　山	376	390	14	103.7%
石　川	504	514	10	102.0%
長　野	576	593	17	103.0%

	店舗数		増加数	対前回比率
	2019.10.1	2020.3.31		
中部運輸局	4,382	4,525	143	103.3%
岐　阜	409	401	−8	98.0%
静　岡	1,058	1,100	42	104.0%
愛　知	2,245	2,337	92	104.1%
三　重	584	595	11	101.9%
福　井	86	92	6	107.0%
近畿運輸局	10,030	10,456	426	104.2%
滋　賀	375	390	15	104.0%
京　都	1,865	1,932	67	103.6%
大　阪	5,639	5,897	258	104.6%
兵　庫	1,693	1,771	78	104.6%
奈　良	253	267	14	105.5%
和歌山	205	199	−6	97.1%
中国運輸局	1,846	1,880	34	101.8%
鳥　取	131	129	−2	98.5%
島　根	85	85	0	100.0%
岡　山	530	540	10	101.9%
広　島	922	945	23	102.5%
山　口	178	181	3	101.7%

	店舗数		増加数	対前回比率
	2019.10.1	2020.3.31		
四国運輸局	766	801	35	104.6%
徳　島	98	105	7	107.1%
香　川	288	302	14	104.9%
愛　媛	250	261	11	104.4%
高　知	130	133	3	102.3%
九州運輸局	5,070	5,322	252	105.0%
福　岡	2,665	2,727	62	102.3%
佐　賀	259	279	20	107.7%
長　崎	495	642	147	129.7%
熊　本	528	532	4	100.8%
大　分	414	419	5	101.2%
宮　崎	225	233	8	103.6%
鹿児島	484	490	6	101.2%
沖縄総合事務局	1,196	1,253	57	104.8%
沖　縄	1,196	1,253	57	104.8%
合計	52,222	54,667	2,445	104.7%

2020年3月31日現在：地方運輸局等管轄地域別
（国税庁集計データを基に観光庁作成）

免税店数の推移



出所：観光庁「都道府県別消費税免税店数」

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向④

○国際会議開催件数
・2019年に日本で開催された国際会議は、対前年比35件増で527件となり、世界8位、アジア・太平洋地域では2位となった。
・沖縄県で開催された国際会議は12件で昨年と同数となった。

2019国際会議開催件数（上位10位）

2019年			2018年		
順位	国名	件数	順位	国名	件数
1位	アメリカ	934	1位	アメリカ	947
2位	ドイツ	714	2位	ドイツ	642
3位	フランス	595	3位	スペイン	595
4位	スペイン	578	4位	フランス	579
5位	イギリス	567	5位	イギリス	574
6位	イタリア	550	6位	イタリア	522
7位	中国	539	7位	日本	492
8位	日本	527	8位	中国	449
9位	オランダ	356	9位	オランダ	355
10位	ポルトガル	342	10位	カナダ	315

日本の都市別国際会議開催件数

2019年				2018年			
順位	都市名	件数	世界順位	順位	都市名	件数	世界順位
1位	東京	131	10	1位	東京	123	13
2位	京都	67	35	2位	京都	59	41
3位	神戸	35	82	3位	福岡	26	103
4位	福岡	28	108	4位	横浜	25	110
5位	札幌	25	117	5位	仙台	22	129
6位	大阪	21	143	6位	神戸	21	134
6位	横浜	21	143	7位	札幌	20	143
8位	名古屋	19	159	8位	名古屋	19	154
9位	仙台	17	176	9位	大阪	15	196
10位	奈良	14	203	10位	広島	13	214
11位	広島	13	210	10位	奈良	13	214
―	沖縄県	12	―	―	沖縄県	12	―
12位	千葉	11	247	12位	つくば	9	272
13位	北九州	7	332	13位	北九州	8	302
13位	松江	7	332	15位	金沢	7	335
13位	つくば	7	332	16位	千葉	6	365
16位	富山	6	377	16位	松江	6	365
16位	豊中	6	377	17位	岡山	5	409

※沖縄県分は、県内各都市（那覇市、恩納村、宜野湾市）の件数を合計したため、順位を「－」としている。

出所：（2020.5.13）ICCA（国際会議協会）国際会議開催統計